

「これまで、乳がんにかかりやすい要因として出産経験のない方や閉経時期が遅い方、肥満や遺伝などが挙げられていました。しかし、今ではこのような危険因子に関係なく増えていますので安心はできません。特に40歳以上の方は定期的な乳がん検診を行うことが大切です」と話します。

「乳がんは早期発見であればあるほど治る確率が高い病気です。2センチ以下のしこりで、リンパ節への転移がない状態であれば約90%の人が10年生存している、つまりほぼ完治している

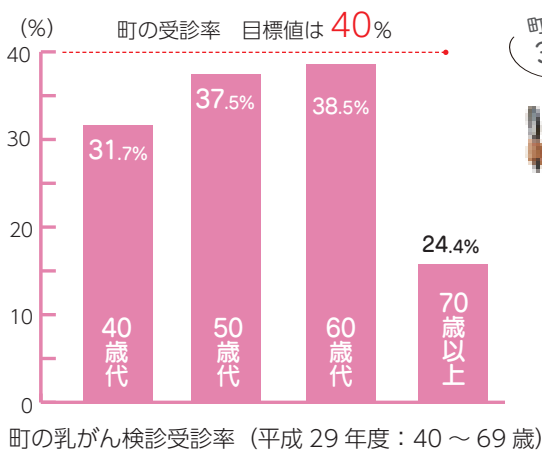
早めの検査と治療で治せる病気

乳がんの現状と検診の重要性について、町が乳がん・子宮頸がん検診事業を委託する、社会医療法人博愛会理事長の相良吉昭さんにお話しを伺いました。

11人に1人が『乳がん』

大切なことは早く発見すること

早期発見と治療で90%以上治る



という結果も出ています。早めの、そして定期的な検診を心がけてほしい」と続けます。

町の乳がん検診受診率は37%

平成29年度に町が実施した乳がん検診の受診率(40歳～69歳)は約37%。特に40歳代は約31%と全国の平均受診率約42%にくらべ低い結果となっています。欧米諸国の受診率は70%を超えており意識の違いが分かります。自分は大丈夫と思わずに定期的な検診受診をお願いします。

発見しやすい ← 町で一番多いタイプ → 発見しにくい

日本人に多い 特に若い女性

脂肪性	乳腺散在	不均一高濃度	高濃度
撮影範囲に入っていれば検出は容易	病変の検出は比較的容易	病変が正常乳腺に隠される危険性有	病変の検出率は低い

発見しにくい「高濃度乳房」

町では**ダブルルチエック**！

エックス線画像で判断するマンモグラフィ検査では見えにくい乳房があります。それが「高濃度乳房」と呼ばれるものです。乳腺組織の密度(濃度)が高いタイプで、乳房全体が白く写り、乳がんも白く写るので、がんがあっても見えにくい場合があります。「高濃度乳房は病気ではありません。日本人女性に多く、特に若い世代に多く見られます。その場合、発見する方法はエコー検査しかありません。そのため、がん化しやすい40歳代から65歳ま



さがらウイメンズヘルスケアグループ代表
社会医療法人博愛会 理事長
相良 吉昭 氏

川崎医科大学卒業。
日本乳癌学会、日本医学放射線学会、
日本人間ドック学会、日本医師会認定
産業医、検診マンモグラフィ読影認定

乳がん・子宮頸がん検診が始まります

10月11日から町内6会場で乳がん・子宮頸がん検診を行います。まだ申し込まれていない方は、9月25日(火)までに役場保健福祉課または住民生活課へお申し込みください。

の方々は、マンモグラフィ検査とエコー検査の併用が望ましいです。最近では30歳代の受診も増えています。高濃度乳房の多い30歳代は、放射性被爆のないエコー検査をおすすめします」とそれぞれの特性を話します。

町では平成28年度からマンモグラフィ検査に加え、超音波(エコー)検査を併用してがんの発見率向上を図っています。また、30歳代でも乳がん検診(エコー検査のみ)を受診できるようになり、20歳代でも全額自費にはなりませんが集団検診の会場で受診できます。